

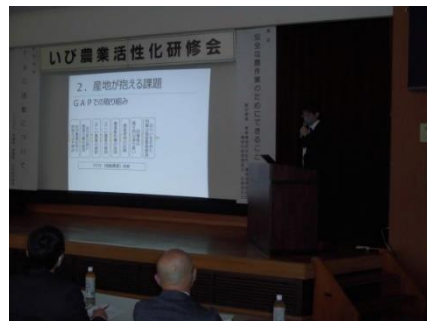
## 揖斐農林事務所の普及活動状況 令和5年2月22日現在

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■農業担い手リーダー 「令和4年度いび農業活性化研修会」を開催

2月14日に、揖斐農林事務所および揖斐郡農業振興協議会主催の「いび農業活性化研修会」を開催した。この研修会は、揖斐地域の農業者や関係機関等が集い、地域の情報交換や知識習得により農業者の経営改善および地域の活性化について考える機会とすることをねらいとして毎年度実施していたが、コロナ禍のため3年ぶりに開催した。

今回は、農業普及課から「茶産地の取り組み」、JAいび川から「TAC活動」について事例発表を行い、その後農業・食品産業技術総合研究機構の講師から、「安全な農作業」について講演があった。研修会には、64名が参加し、活発に質疑や意見交換が行われた。



【活動事例発表】

#### ■新規就農者等 「第3回揖斐地域就農支援協議会」を開催

2月6日に、第3回揖斐地域就農支援協議会を開催した。現在までの就農相談状況や、今年度の新規就農者について各町から紹介を行った。今年度は3町で独立自営での新規就農者があり、就農までの計画作成や補助事業の利用について協議会で支援を進めてきた。新年度早々に就農を予定している相談者もあり引き続き支援する。

また、就農支援体制や新規就農者の様子をまとめた「新規就農者DVD」も完成し、管内の関係施設やYouTubeで揖斐地域の就農支援活動のPRに活用していく。



【会議の様子】

#### ■かき 柿帰農塾フォローアップ研修の開催

2月4日に、JAいび川主催の柿帰農塾フォローアップ研修会が開催され、生産者4名が出席した。フォローアップ研修は、柿帰農塾の卒業生の柿経営における課題解決の場として隔年で実施されている。

農業普及課から、令和4年産の柿の生育状及び令和5年産の柿栽培に向けた対策や病害虫の防除など情報提供を行った。その後、柿振興会観光農園にて実技を交えながら剪定方法について講義した。出席者からは、普段疑問に思っていたことが解決できた等の声が聞かれた。

令和5年度は、帰農塾の開催を予定しており、現在、塾生を募集中である。



【研修会の様子】

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■大野町採種圃生産組合 「栽培研修会」を開催

大野町採種圃生産組合では、米（ハツシモ岐阜 SL）8ha、小麦（イワイノダイチ）42ha、大豆（フクユタカ）25ha で種子生産を行い、本県の採種事業を支えている。

2月9日に組合員が集い、栽培研修会が行われ、令和4年産の振り返り、令和5年産の栽培に向けた取り組みを確認した。近年、本県の大豆種子の生産は不安定であり、令和5年産から安定生産が可能な大野町の採種圃面積は5ha 増える予定となっていることを踏まえ、農業普及課から大豆を中心に栽培管理について情報提供を行った。



【栽培研修会】

### ■茶 粗揉機用省エネ型熱交換機試運転

2月3日に（農）桂茶生産組合工場において、新しく導入された粗揉機用省エネ型熱交換機の試運転が行われた。粗揉機熱交換機は「施設園芸省エネ設備導入支援事業」を活用し重油式からガス式に変更したため、燃油の高騰対策の一助となることが期待される。

試運転は無事に終わり、令和5年産の一番茶から工場稼働される予定で、これからも安心安全の荒茶を製造し、産地の信頼を高めていく。



【粗揉機熱交換機の試運転】

### ■花き フランネルフラワー新品種「フェアリーカスタード」出荷

2月中旬から、県育成のフランネルフラワーの新品種‘フェアリーカスタード’の出荷が揖斐地域から試験的に行われた。

従来の切花品種の主力となっている‘ファンシーマリエ’と比較して、全体に黄色成分が強く、カスタード色の花卉、花芯を持つ。フランネルフラワーは岐阜県にしかない花であり、ブライダル需要などで高評価を得ている。

従来から東京中心に出荷が行われているが、新しい色のバリエーションが増え、新たな表情を与えるものとなっている。揖斐地域から先陣を切って出荷が開始されたもので、市場・店舗での高評価を期待されている。



【フェアリーカスタード】

### ■かき 柿生産者がぎふ清流GAPの評価を受評

大野町かき振興会では、安全・安心で持続力のある柿経営の取り組みを行うため、令和2年度から振興会技術部会17名が中心となり、経営の改善を目的にGAPの知識習得を進めている。今回は、3名の役員がぎふ清流GAPの評価を2月中旬に受けた。

農業普及課では、技術部会でのGAPへの取り組み啓蒙、評価を受けるための模擬審査等実施し支援してきた。今回評価を受けた生産者3名は、取り組めるところから順次実施していき、経営をより良くしていきたいと話す。

次年度以降も関係機関と連携し、引き続きGAPの取り組みの支援を実施していく。



【ほ場でのGAP評価の様子】